

事業名 小倉都心地区バリアフリーの まちづくり

利用者とともに計画づくりから事業の実施までを行い、「より人にやさしく、より使いやすく」を視点にしたバリアフリーのまちづくり

受賞機関 北九州市建設局道路部道路計画課
事業実施期間 平成9年度～平成12年度
事業費 5,000百万円



事業等の特徴

バリアフリーのモデル事業として位置づけられる事業であるが、現場優先主義を徹底し、車いすの試験走行や床材の試験張り等を実施するなど、多くの人の共感を得られる形を追求している。駅周辺の賑わいのきっかけになるとともに、全国に先駆けたバリアフリーの基準化、新しい構造の採用をしている。事業の概要と利用者等の評価

北九州では、歩道の幅や段差の解消など福祉のまちづくりの視点で整備を進めてきた。現在もその取り組みをさらに進め、まち全体を全面的かつ総合的にバリアフリー化し、すべての人が安心して生活できるまちづくりを進めている。

平成10年4月、JR小倉駅や駅前広場及びモノレールの延伸などが完成した。そこで、駅を中心とした1km四方をモデル地区として、市民参加によるバリアフリー点検や「小倉都心地区バリアフリーのまちづくり推進計画」を市民と協働で策定し、それに基づく事業を、平成12年3月をもって完成させた。

具体的には、モノレール駅と医療福祉施設をつなぐ立体横断施設の整備や15路線における歩道拡幅や段差解消、交差点の段差解消、6kmにわたる視覚障害者誘導用ブロックの設置などを集中的に整備した。この結果、駅と医療や福祉施設及び公共施設などを結ぶ主要な経路がバリアフリーのネットワークでつながり、快適な移動が可能となった。また、この整備に併せ、手すりの高さや点字シートの位置及び内容について、障害者団体の「福祉のまちづくりネットワーク」と協議を重ね、利用者の視点から取り組むことができた。また、新たな基準や整備方法も数多く生まれた。

当地区のまちづくりは、施設をつくる人と利用する人が一緒になって計画をつくり、施設を整備したものであり、また、一方で、市民に理解と協力を求

めるソフト施策「人にやさしいまちづくり週間“バリアフリーウィーク”」を開催したことも大きな特色である。この施策は、イベントの参加を通して市民意識の高揚を図るもので、シンポジウムや「ふれあいミニコンサート」、商店街などでの違法占用物件の撤去指導など13事業を行い、約5,300人の参加を得る全体での取り組みとなった。

本事業の特色は次のとおりである。

- 市民参画型で実施されたこと。
 - ハード・ソフトの両面から一体的に取り組んだこと。
 - 総合的かつ利用者の視点で、駅や施設、建築物をネットワークで結び、面的な整備を行ったこと。
 - 舗装材などは現地で障害者と一緒に選定するなど、「現場優先主義」で実施したこと。
- 現在、全国から行政や議会などの視察があり、各種テレビや雑誌などでも取り上げられ、バリアフリーのまちづくりに係る全国のモデル地区としての役割を果たしている。

審査委員会委員の意見等

- ・現場優先主義によるバリアフリー化というあたりまえのことに実践している。
- ・現場優先、即決主義は参加による意見反映の実績を感じ取るためにも有効である。
- ・個別になりがちなバリアフリーを1平方km四方を面的にバリアフリー化したり、街としての広がりを持たせている事業である点を評価したい。
- ・アーバンデザインに力を入れてきた北九州地区において、利用者が参加してのまちづくりは、全国的にも影響力をもっていくのではないだろうか。
- ・現場即決の思い切りを評価したい。
- ・障害者団体と真剣な議論を行い、異なった障害者間の各々の意見を調整し、新たな整備方法の提案にまでつなげたことは評価できる。